
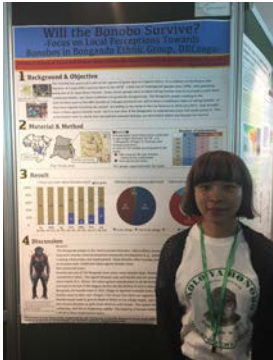


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 8 月 1 日	
所属部局・職	アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究専攻・博士課程 5 回生
氏名	横塚 彩

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
マレーシア サルワク州・クチン	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
Association for Tropical Biology and Conservation への参加およびポスター発表	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
平成 30 年 6 月 30 日 ~ 平成 30 年 7 月 9 日 (10 日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
Association for Tropical Biology and Conservation	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
マレーシア クチンで開催された国際熱帯生物保全学会大会に参加させていただいた。 この学会に参加した目的は、霊長類にとらわれないあらゆる種の保全に特化した発表を聞くこと、社会学的手法での保全研究に関する知識をつけること、自分自身の研究の発表を行うことである。今回の学会はアジアでの研究が主となっていたが、フィールドワークを通じた研究発表が多かったため、参考になるような研究も見つけることができた。 ポスター発表のコアタイムは会期中 2 回あったが、ポスターの前で足を止めてくれる方が非常に多く、たくさんの方から質問をいただいた。コンゴのボノボ研究者にとっては、真新しい事実でなくても、地域や対象種の違う研究者にとっては、衝撃的な調査結果と受け止められることもあり、私の想像よりも反響が大きいように感じた。 近年の保全に関する研究を論文や発表でみると、分野横断的な研究が多いように見受けられる。動物生態学と社会学両方の手法で一つの研究結果をだしているようなものもあるが、私の研究に類似した社会科学的+人類学的手法のものはまだそれほど多くないように感じた。今回初めて保全に特化した学会に参加したが、初めて聞く研究が多く、また私自身の研究を同じような分野の方々に知っていただけるよい機会となった。	
	
↑ 狩猟と違法取引に関するセッション。アジアでは象牙やセンザンコウの甲羅など、国際的な違法取引が多く報告される	↑ ポスター発表コアタイム
6. その他 (特記事項など)	